

# 雪の上の熱い戦い！雪中カルタ大会

2月2日、雪の上に並べられたカルタの札を取り合う「第27回なかやま雪中カルタ大会（主催：町青少年育成町民会議）が町民グラウンドで開催されました。

この大会は、地元の歴史や伝統行事にちなんだオリジナルのカルタ（☆）を通して、子どもたちにふるさとである中山町をよく理解し、愛する心を育んでもらおうと毎年行われています。

今年は雪が少なく、屋内での開催も検討された



そうですが、会場の町民グラウンドは、前日降った雪のおかげで絶好のコンディション。町内の14の分団から、小学生と保護者合わせて433名が参加し、分団対抗でつた札の数を競い合いました。

札が読み上げられると、目的の絵札を目指して元気に走り出す参加者



そろって札を取ったという親子も。大津和弘さん・飛雅くん（柳沢分団）

たち。雪に足をとられてバランスを崩し、転んでしまう児童もいましたが、「雪の上は転んでも痛くないから平気。思いつきり走れるから楽しい！」と雪の上を元気に駆け回っていました。会場には子どもたちの歓声と保護者の声援が響き、今年もにぎやかな大会となりました。



▲競技終了後は「ボランティアあさひ」の皆さんから玉こんにやくが振舞われ、参加者は冷えた体を暖めました。

☆次のようなオリジナルカルタで、地元への理解を深めました。

- ① 岡は 札所の 十四番
- ② 山あいの「岩谷観音」目の神様
- ③ 土橋に 昔からある「獅子踊り」



## 【大会結果】

Aブロック	
1位	梅ヶ枝町分団
2位	1分団（達磨寺・向新田）
3位	3分団（旭町、川端、下川、柳町、中町、中原、広瀬）
敢闘賞	柳沢分団、小塩分団
Bブロック	
1位	岡分団
2位	あおば分団
3位	2分団（新田町、新町、上町、元町）
敢闘賞	いずみ分団
Cブロック	
1位	桜町分団
2位	5・6分団（三軒屋、落合、文新田）
3位	土橋分団
敢闘賞	金沢分団、4分団（北小路、西小路、西町、南小路）

## 第84話 溜池・堤防の決壊と修復 中山町 歴史散策

須川も大雨による洪水が多く、下流部では蛇行も激しいものでした。

須川に關わる本町の洪水は、主に車淵と呼ばれる船町の西、須川の蛇行帯が大水によって突き破られ、あふれた水が北に流れることにより発生しました。水流は、向新田村から達磨寺村の東と西の二つの流れとなり、東流は須川沿いの自然堤防と集落の間を文新田から三軒屋へと流れる一方、西流は立道に流れて低湿地の渋沼に注ぎ込みました。

須川下流域では、自然堤防がよく発達しており、特に、須川左岸では自然堤防上が桑畑になっています。

天明8年（1788）の絵図では、立道の周辺と達磨寺村の西、さらに広瀬と沢田に水溜りや低湿地が記されており、達磨寺村の東西にある低地が遊水地の役割を果たしていたことがうかがえます。

車淵は、船町集落の南端、須川右岸左岸の曲流部をいいますが、ここは自然堤防が一段と低い地形で今日の県道山



辺船町線沿いの船町集落南と鶴田橋の間にあたっています。鶴田の標高は101.7m、県道山辺船町線の標高97.2mの窪地からあふれた須川の洪水は、達磨寺西では標高92m、達磨寺東と向新田東は93.1m、この間約1kmの勾配は約6.7mにもなることから大きな出水では相当な流速を持っていました。

※参考 中山町史 中巻 第9章第1節 風水害と対策

## なかやまタイムスナップ Vol.10

今から54年前…

1960

(昭和35年)

昭和天皇、中山町ご通過

今から54年前の昭和35年5月10日、昭和天皇皇后両陛下が中山町を初めて通過されました。

この日、両陛下は上山で行われた国土緑化大会植樹行事に参加された後、寒河江市の県林業指導所をご見学されるため、中山町を通過されました。

沿道では子どもからお年寄りまで、約8000人もの町民が手に日の丸旗を持って出迎え、両陛下は終始にこやかな表情で手を振っておられました。



案内人 すもものしずくちゃん  
すもものしずくちゃんの詳細はフェイスブック

寒河江からお帰りになる時は中山町の立道を通って山辺へ行かれ、この日両陛下は上山の村尾旅館にご宿泊されたくですもも。

